

須賀川市

障がい児福祉に関するアンケート

調査結果

2018（平成30）年3月
須賀川市 健康福祉部 社会福祉課

目 次

I 調査の概要	
1 調査目的	45
2 調査設計	45
3 調査結果の見方	45
II 調査結果	
1 対象者と日常生活	46
2 障がい等と医療	47
3 支援	49
4 将来	53
5 緊急時	55
6 暮らしやすい環境づくりのために望むこと	56
III 自由意見	
回答者の自由意見	57

I 調査の概要

1. 調査目的

障害者総合支援法及び児童福祉法の一部改正により、新たに須賀川市第1期障がい児福祉計画（2018（平成30）年度～2020年度）を策定するにあたり、障がい児等及びその保護者の生活全般に関わる実態や障害児通所支援の利用状況及び意向等を把握するとともに、地域の特性や実情に沿った計画策定の基礎資料とするためにアンケート調査を実施しました。

2. 調査設計

（1）調査実施期間

2017（平成29）年8月17日（水）～8月29日（火）※9月1日（金）着まで有効票

（2）調査対象

本市内在住の障がい児等のうち、2017（平成29）年4月～6月の間に障害児通所支援または障がい福祉サービスの利用があった者（以後、対象者）の保護者139人

（3）調査方法

郵送での配布及び回収

（4）回収結果

80人（有効回収率57.6%）うち、調査時点で未就学児21人、就学児59人。

（5）調査主体

須賀川市 健康福祉部 社会福祉課 障がい福祉係

3. 調査結果の見方

（1）調査数（ n =number of cases）とは、有効回答者総数または分類別有効回答者数のことです。

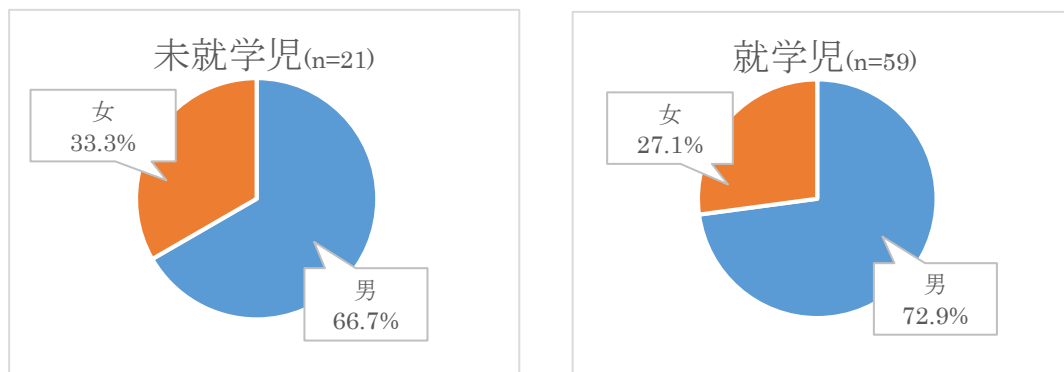
（2）回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しました。

（3）回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各選択肢における有効回答者総数に対する比率を算出しました。

（4）調査票における設問及び選択肢の語句等を一部省略または簡略化している場合があります。

1. 対象者と日常生活

(1) 対象者の性別

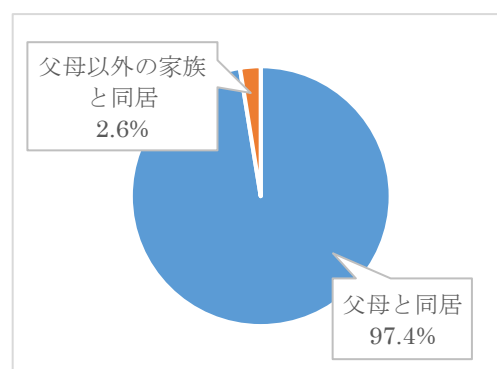


(2) 対象者が現在、生活しているところ (n=80)

里親宅を含む80人(100.0%)が「自宅で家族と同居」と回答し、「その他」は0.0%でした。

(3) 家族構成 (n=78) ※未回答2人

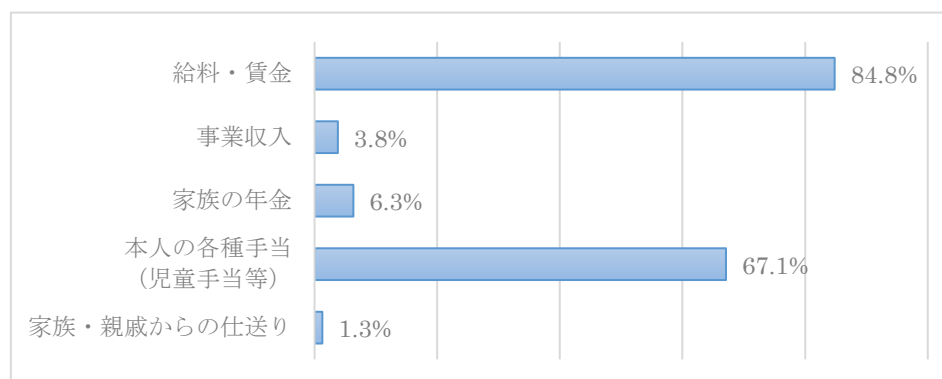
※「父母」には里親を含む



(4) 対象者が属する世帯の、生計を支えている人 (n=79) ※未回答1人

里親を含む79人(100.0%)が「父母」と回答し、「父母以外の家族」は0.0%でした。

(5) 世帯収入の種類 (n=79) ※未回答1人 ※多肢選択

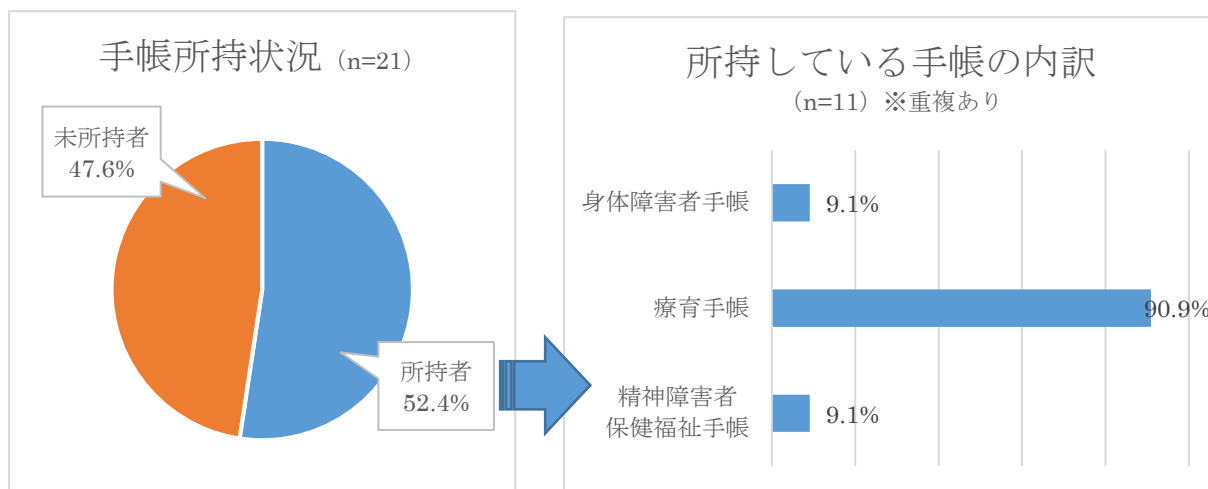


選択肢のうち、「財産収入」及び「生活保護」は0.0%でした。

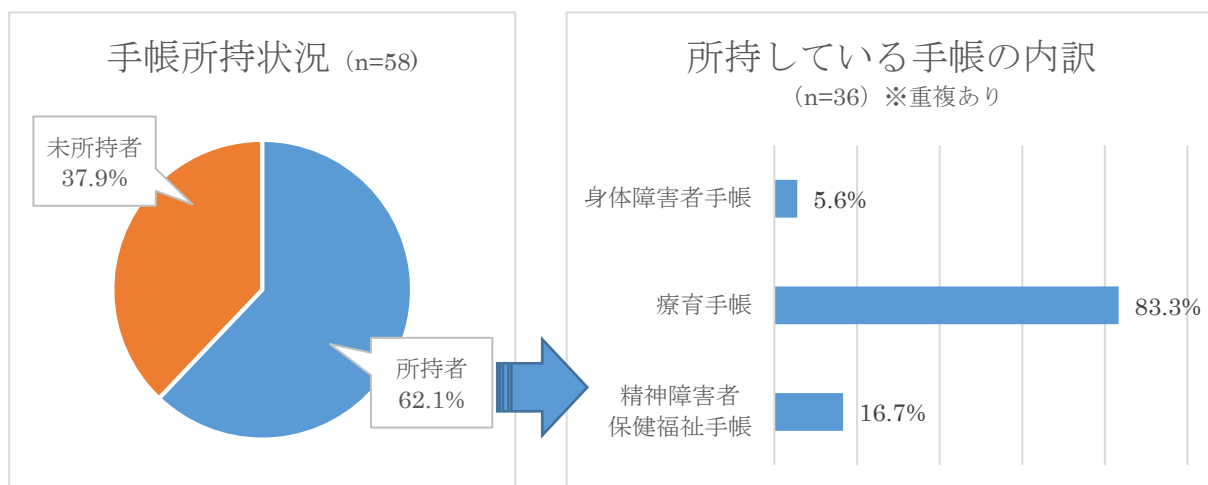
2. 障がい等と医療

(1) 障害手帳の所持状況

未就学児の手帳所持割合及びその内訳は以下の通りです。

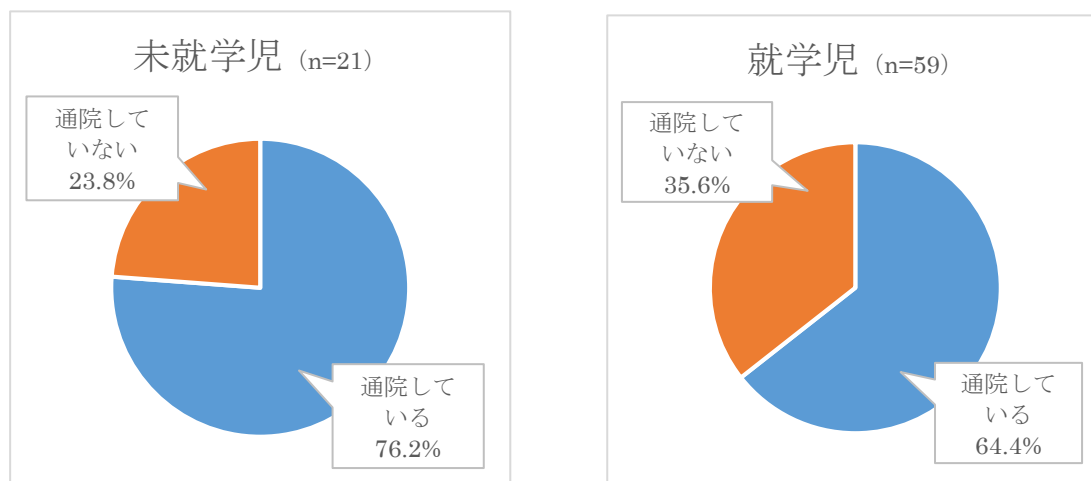


就学児の手帳所持割合及びその内訳は以下の通りです。※未回答1人

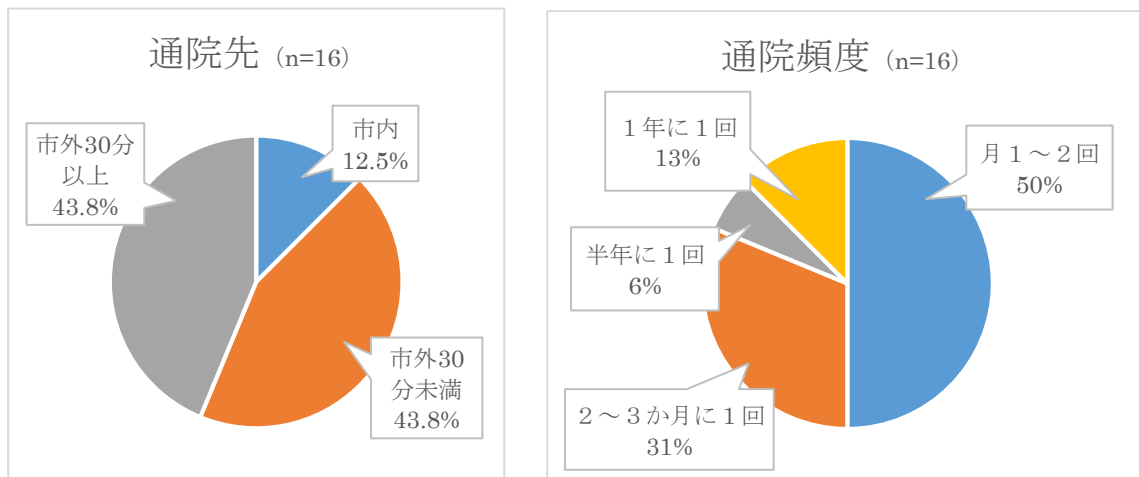


(2) 通院状況

障がい児等の通院状況は以下の通りです。

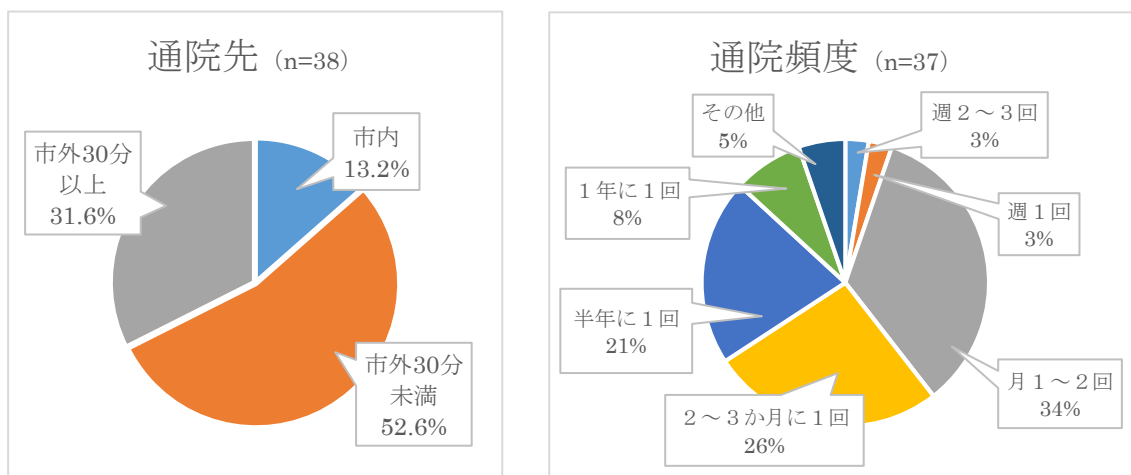


通院をしている未就学児の通院先及び通院頻度の内訳は以下の通りです。



通院頻度の選択肢のうち、「ほとんど毎日」、「週2～3回」及び「週1回」は0.0%でした。
通院をしている就学児の通院先及び通院頻度の内訳は以下の通りです。

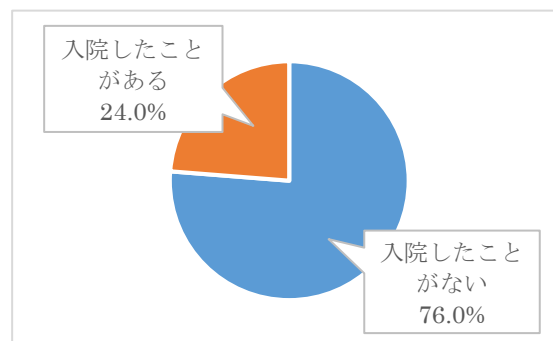
※通院頻度の未回答1人



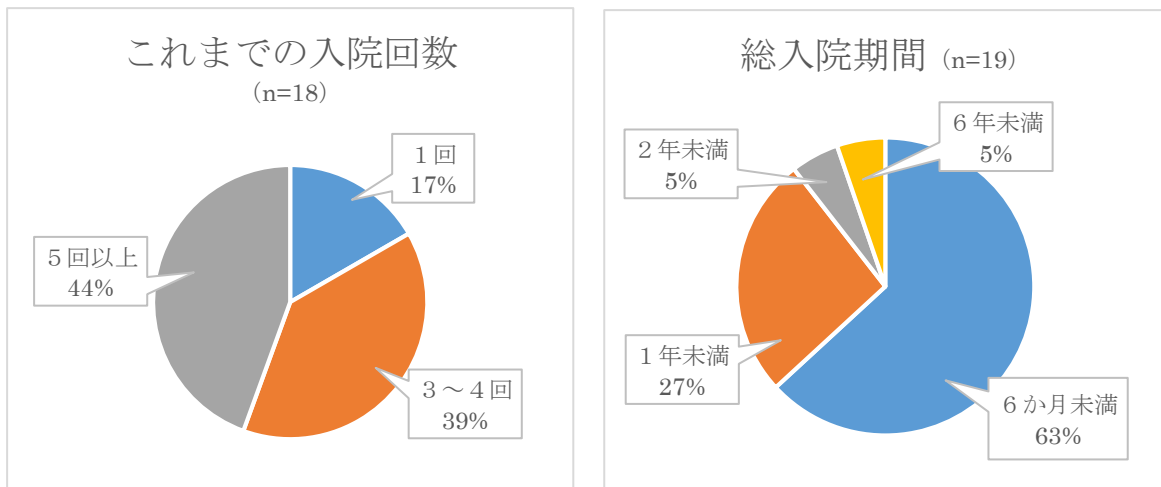
通院頻度の選択肢のうち、「ほとんど毎日」は0.0%でした。「その他」を選択した理由は、「診断書が必要な時」や「発達検査のため」でした。

(3) 入院状況

現在入院をしている障がい児等はいませんでした。
これまでの入院状況は以下の通りです。



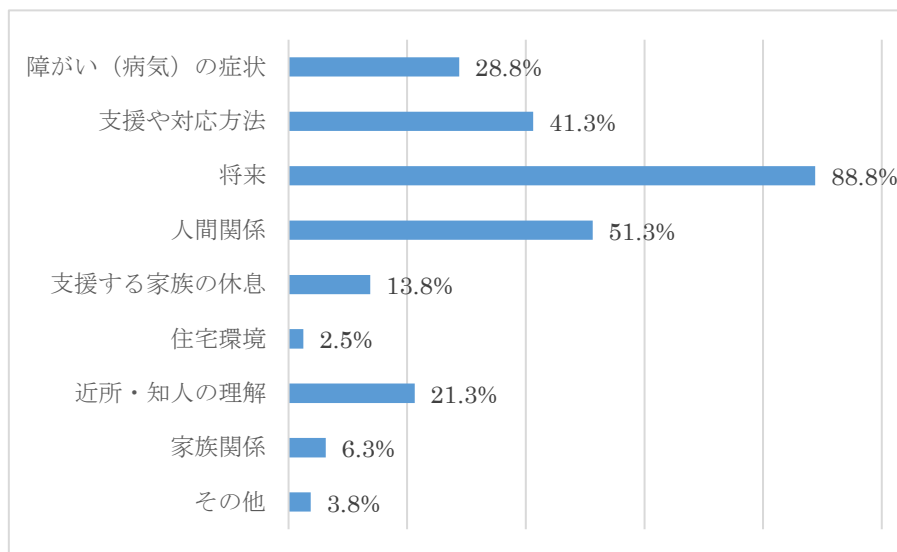
これまでに入院をしたことがあると回答した 24.0%(19 人)のうち、これまでの入院回数と総入院期間は以下の通りです。※これまでの入院回数の未回答 1 人



これまでの入院回数の選択肢のうち、「2回」は 0.0%でした。「総入院期間」とは、これまでに入院した期間を足したもので、選択肢のうち、「4年未満」及び「6年以上」は 0.0%でした。

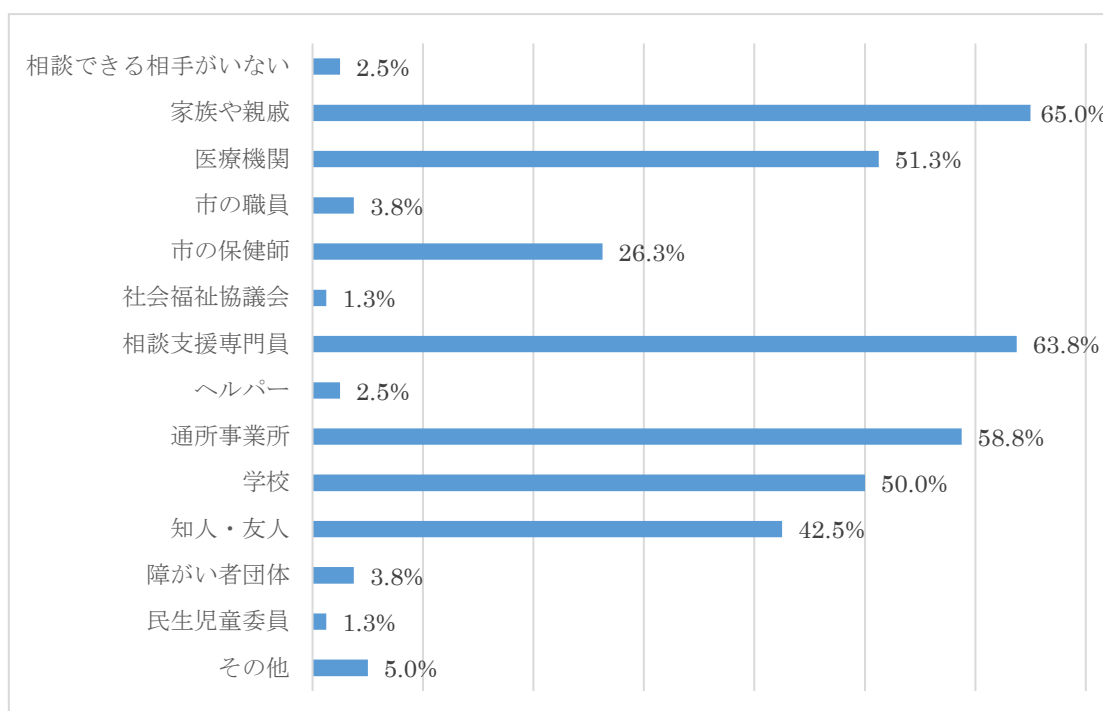
3. 支援

(1) 対象者を支援するうえで不安に感じていること (n=80) ※3つまで選択可



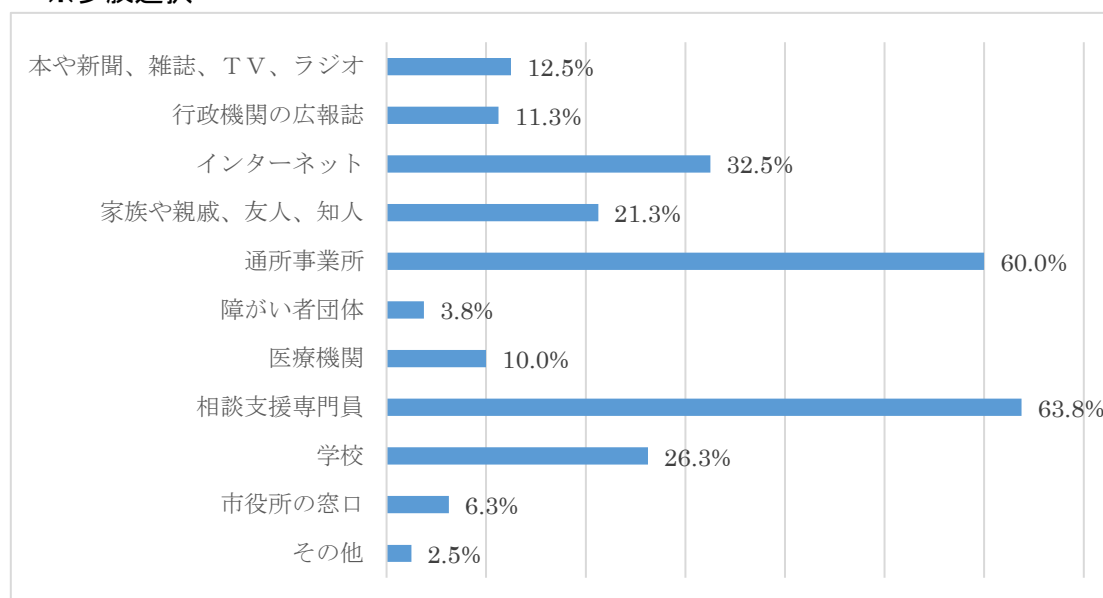
「その他」には、「交通の便」、「家族が年老いた際の支援」、「しっかりした特別支援が行える小中学校がない」といった意見がありました。

(2) 対象者の支援についての悩み等を相談できる相手 (n=80) ※多肢選択



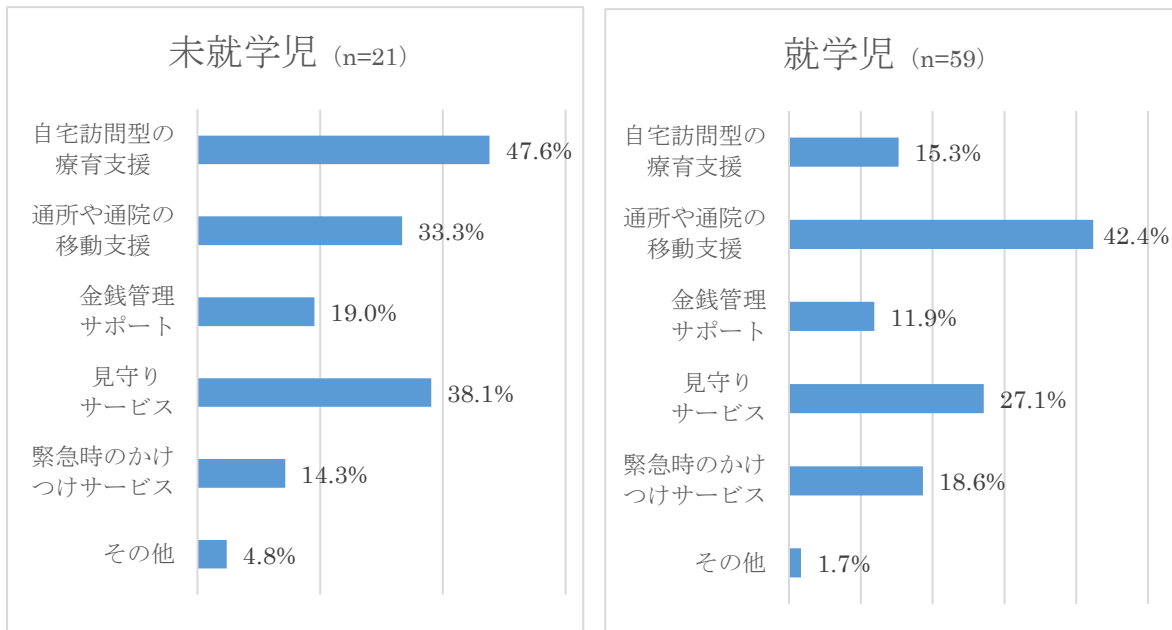
選択肢のうち、「保健所」は0.0%でした。「学校」には、こども園が含まれています。「相談できる相手がない」理由には、「相談専門の窓口がないのですぐにはできない」という意見がありました。「その他」には、「フェイスブックの友人たち」、「児童相談所」、「学童保育」などが挙げられていました。

(3) 障がいや各サービス、医療等に関する情報を、どこから得ることが多いか (n=80) ※多肢選択



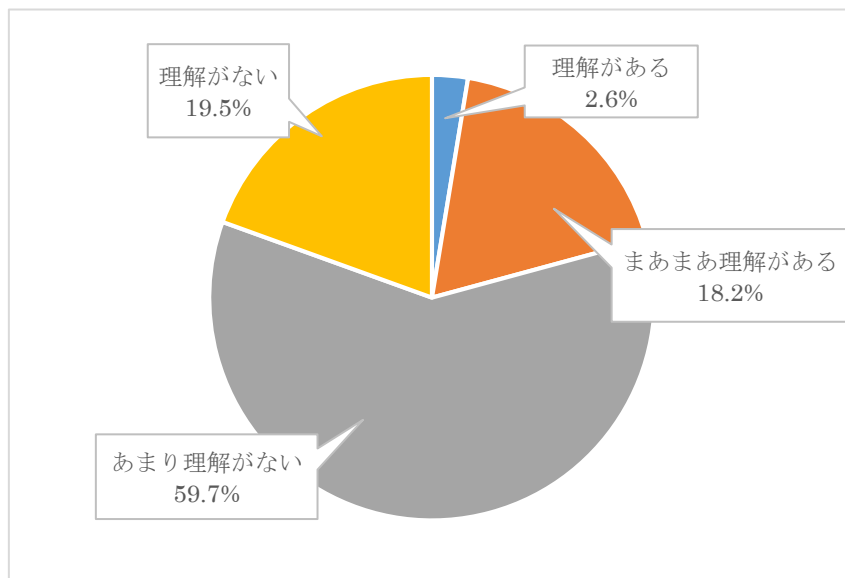
選択肢のうち、「民生児童委員」は0.0%でした。「その他」には、「児童相談所」や市で実施している「なかよし学級」が挙げられていました。

(4) 対象者を支援するうえで欲しいサービス（実際には利用できないサービスを含む）
※多肢選択



未就学児の「その他」には、「短期お泊り預かり」が、就学児の「その他」には、「自立支援・目標(生活面)の達成を目指す短期入所」が挙げられていました。

(5) 障がいや障がい者等に対する市民の理解についてどう感じるか (n=77) ※未回答3人



(6) 市内の公的機関（施設）についての要望

※自由回答（個人情報等により修正が必要な箇所以外は、原文のまま掲載しています。）

未就学児の保護者からの回答

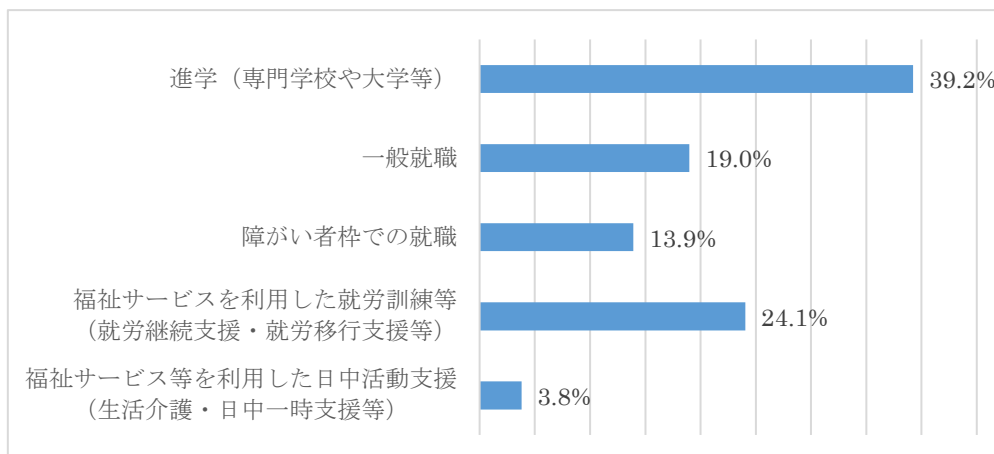
- ・プール教室など市内で通える所が欲しい。
- ・知的障がいがある子はおむつ外れが遅く、また水遊びが好きな子が多いため、おむつ着用可のプールまたはちやぷちやぷ池が欲しい。
- ・矢吹町の「未来くる矢吹」のような、大きい声を出してもあまり気にならず、走り回っても迷惑にならないような施設がほしい。Tettelにできるキッズパークにも反映させてほしい。

就学児の保護者からの回答

- ・市内に小学生の障がいを持った子供が遊べる施設を作ってほしい。
- ・トイレを利用しやすいようにしてほしい。（和式→洋式へ、明るくする、など）
- ・障害児の居場所は少ないので、せめて公的施設では、声を多少あげたりするぐらいは大目に見て欲しいです。それだけでなく外出した時は人目を気にしたり、なるべく人の迷惑にならないように介護者（親）は遠慮しているので。スタッフが障害児と関わられるよう研修会や実習してみたいかですか？そうしたら、もっと楽しくなるし、お互い偏見や誤解なく生活できるんじゃないでしょうか？「共生社会」「心のバリアフリー」地道に着実に体験を積み重ねたら案外、たやすいことかもしれませんよ。
- ・市内循環バスを利用したいのですが、登校時間にあわないので時間調整をしてほしいです。
- ・静かに過ごせなくても良い場があるとありがたい。図書館利用等させたいが、静かにずっと過ごすのは不可なことが多いため。
- ・アリーナで障害者利用日を作ってほしい！トランポリンが大好きですが…人の目が気になります。（2～3カ月に1度でも…）
- ・保護者同士交流できるような場がほしいです。また子どもに障がいがあると外出先も限られてしまうため、障がいのある子供たちの遊べるような場やツアー、習い事があったらいいと思います。
- ・学校等で小さいうちから障がいについて理解できるような授業があってもいいと思います。
- ・障がいに理解のある指導者による習い事（障がいのある子供だけのクラス等）水泳、ピアノ、体の使い方等々
- ・もう少し色々な面で積極的な障害者への理解があれば良いと思うので、健常者との交流の場などのプランがあれば障がい者への理解が深まるのではないかと思います。
- ・子供たちが気兼ねなく遊べる場所
- ・公的機関として放課後デイサービスを提供する施設があるといい。
- ・須賀川駅におもいやり駐車場を作ってほしい。送迎時に一般の方と一緒に難しい時があります。

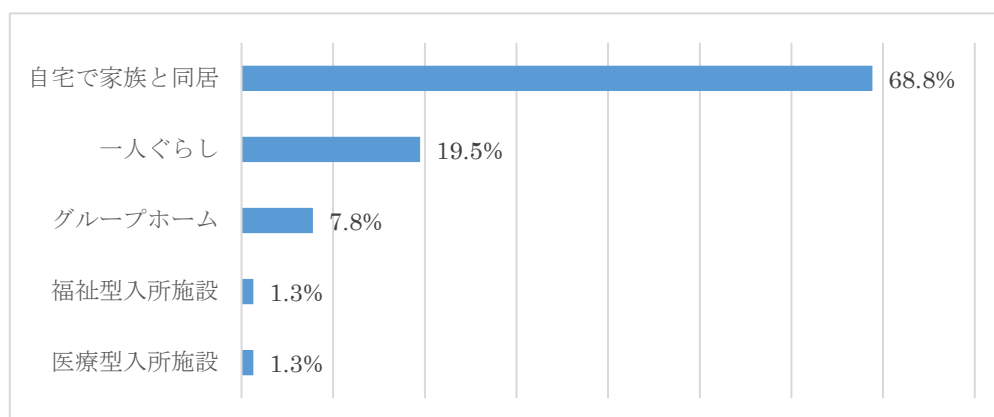
4. 将来

(1) 18歳到達後の進路希望 (n=79) ※多肢選択 ※未回答1人

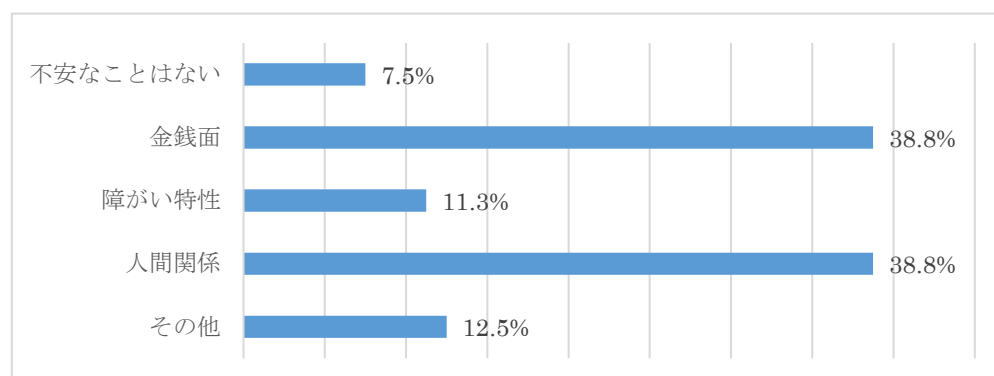


選択肢のうち、「自宅で療養」は0.0%でした。

(2) 対象者が将来、どのような居住形態で生活することを希望するか (n=77) ※未回答3人



(3) 希望する居住形態で生活することについて不安なこと (n=80) ※多肢選択

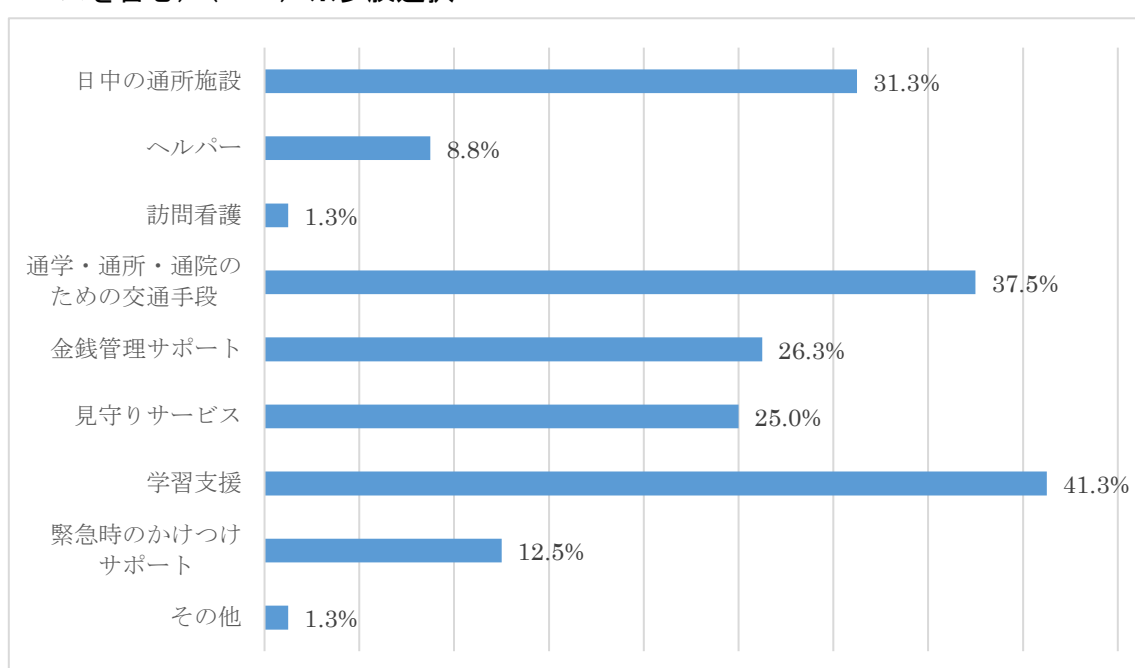


「その他」の内容は以下の通りです。

- ・入れるところがあるのかどうか。
- ・希望通りにならなかったらどうするか。

- ・家事や身の回りのこと。
- ・施設の事件や事故の報道をきいていると不安で、施設入所（グループホームも）に抵抗がある。
- ・自立できるのか。
- ・感情的な暴力、引きこもり
- ・定員が一杯で入る所がないのではないか
- ・困った時に本人が相談できるのが今は家族だけなところ
- ・介護者の自由な時間はあるのか
- ・今のような介護を続けていけるのか。親も年をとるので体力的に。

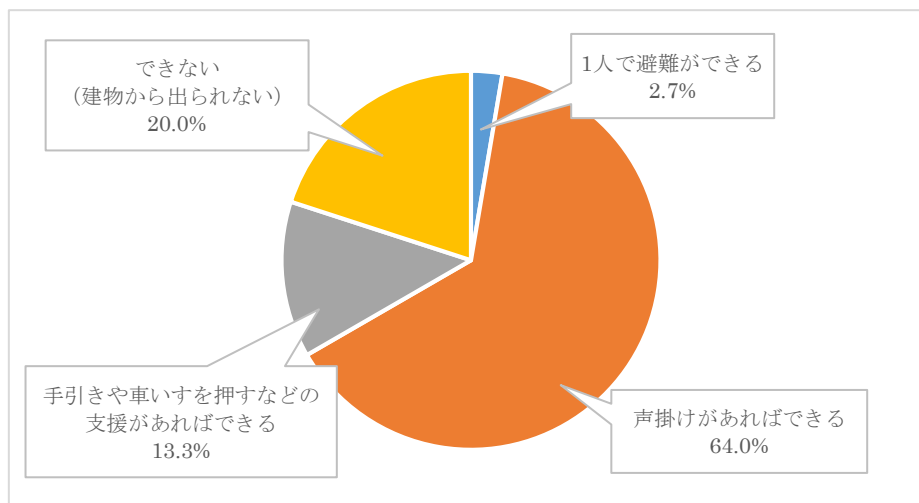
(4) 希望する生活を実現するために利用したいサービス（実際には利用できないサービスを含む）(n=79) ※多肢選択



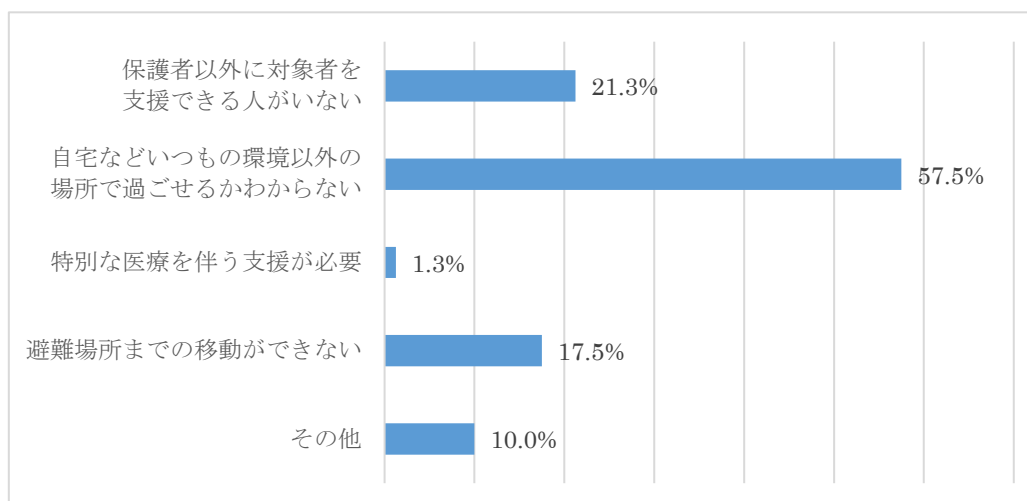
「その他」には、「養育学習（どう養育すればいいのか）」が挙げられていました。

5. 緊急時

(1) 災害などの緊急時の避難方法 (n=75) ※未回答5人



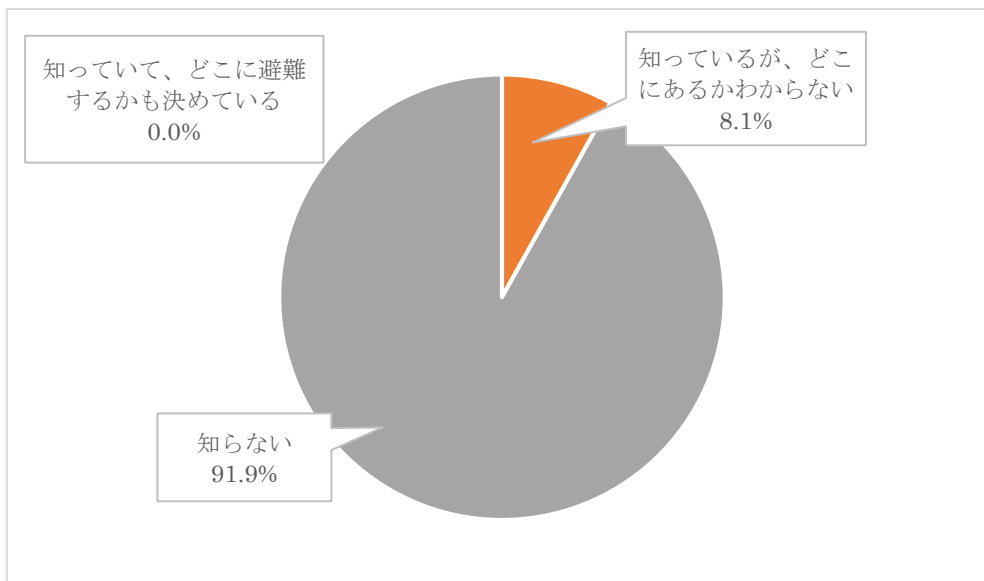
(2) 災害時に対象者が避難をする際、心配されること (n=80)



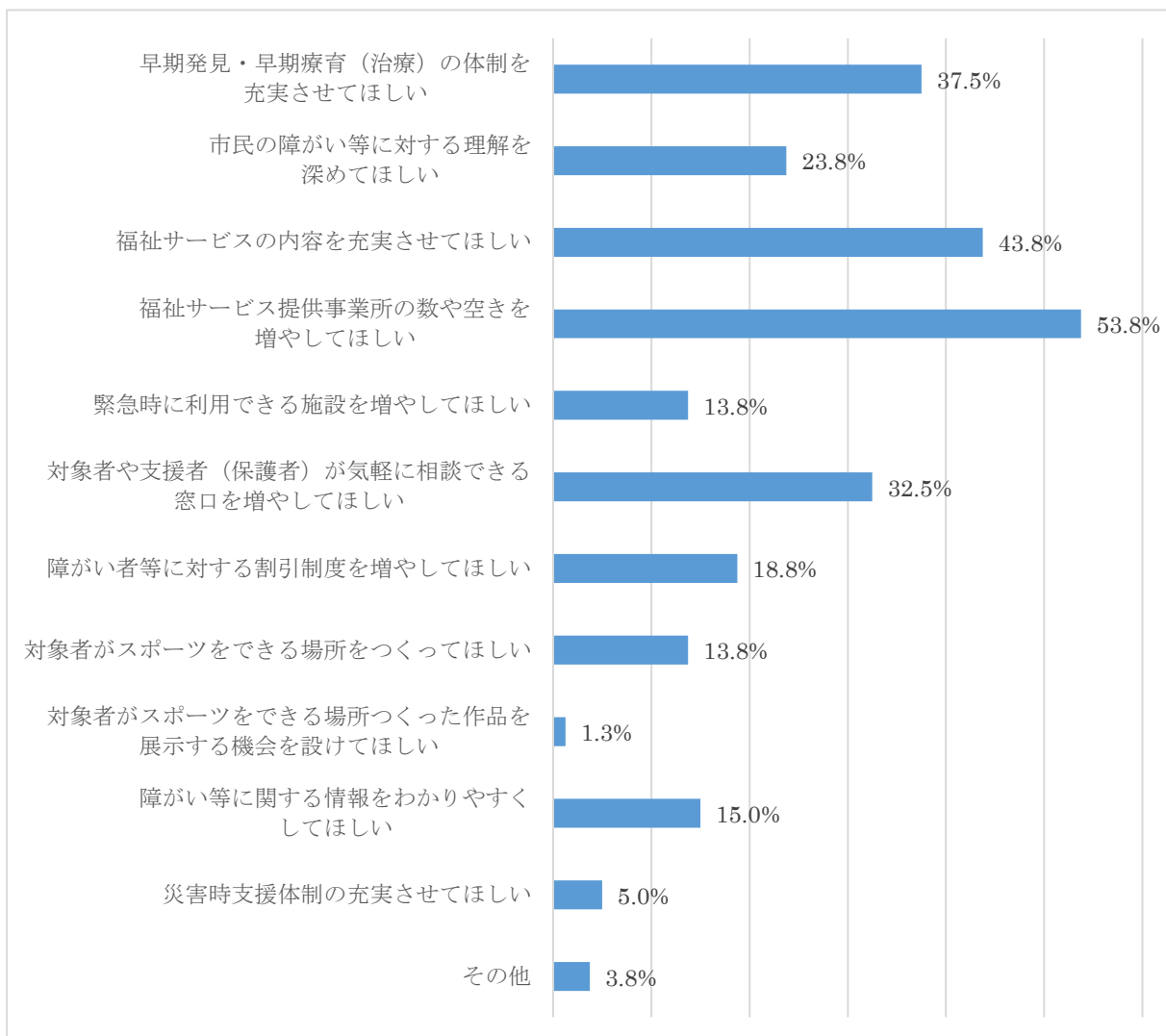
「その他」の内容は以下の通りです。

- ・声掛けしてもらって、顔見知りの方がいれば大丈夫
- ・アレルギー（食物）
- ・避難場所での他者の理解
- ・多人数の中で生活ができない（騒々しいのが苦手）
- ・ろう者なので情報が理解できるか不安
- ・自閉症です。他の方もそうでしょうが、人混みに長時間いることが困難な時があります。狭くても区切られた空間でカームダウンすることができると助かります。
- ・パニックを起こした時に一人になって気持ちを落ち着かせるような場所を確保できるか
- ・環境の変化に弱いので、ストレスがたまると自傷、自閉が強くなる恐れがあります。

(3) 市で設置する「福祉避難所」を知っていますか (n=74) ※未回答6人



6. 暮らしやすい環境づくりのために望むこと (n=80) ※多肢選択



Ⅲ 自由意見

アンケート調査の自由意見欄に寄せられた意見・要望を掲載します。

(個人情報等により修正が必要な箇所以外は、原文のままで掲載しています。)

*****未就学児の保護者からの回答*****

【障がい等・支援】

- ・将来、18歳以上になった時、若しくは親が死んだ後に、子どもが安心して入所、通所できる所があるのか、とても不安です。さらに遠い将来、誰が子どもを看取ってくれるのか、兄弟、親戚に頼れる人がいないので、不安で不安でしかたありません。そういうことは誰も教えてくれないし、調べても納得できる答えがありません。そのようなことを親は求めていると思います。
- ・ペアレントトレーニングや生活において気を付ける工夫など学ぶ機会が欲しい。またその保護者同士の情報共有できることや、気軽に相談窓口があるとうれしいです。また、現在こども園に通園しながら療育に通っているので、先生方に見守ってもらえるのはありがたいです。
- ・親子が発達障害の家庭の話が聞きたい。
- ・自閉症と診断されてから、どのように診察や行政での手続きがあるのか、又は、利用できるのかをフローチャート式で提示してほしい。わからない人が多い。

【福祉・施設】

- ・児童発達施設は空きがなく、空いている施設でも利用日が1日しかないので空きを増やしてほしい。
- ・医師より、須賀川市の療育に対する制度、考え方（たけのこ園や市の保育園の先生の考え方等）は県内トップクラスではないかとほめてもらいました。今後共、支援よろしくお願い致します。
- ・不安なのは子どもたちの将来のことです。私たちが死んだ後に、どうやって生きていくのか。それが見えないので常に不安です。年金をもらっても、施設や見守ってくれる人がいなくなったら、どうしたらよいかわかりません。見守ってくれる人（兄弟等）がいないので、グループホーム、入所施設などが増えてくれることを望みます。

【社会環境】

- ・障がいについて、まわりの理解がないように感じる。特に障がいに係わりのない中学校の先生に感じる。一般の人にも知ってほしいが、これから育つ子供たちも知らなければいけない知識を先生たちの反応で障がいを持った子がキズついてしまうと思います。生活しにくくなります。ぜひ学校の先生（障がい支援に係わりのない先生）たちに障がい児について知って欲しいと思います。
- ・発達障がいの中でもグレーの子供達は困りごとがわかりづらく、性格の問題と片づけられがちだし、“障がい者”とは思われたくないと思ってしまう家族も多いため、共通認識を広めようとしても家庭の中で引きこもってしまうことが多いと思う。内々の勉強会ではなく、“全市民共通の認識”となるような取り組みがあってもいいと思う。

【保育・教育】

- ・保育園の先生や療育の先生が主になる勉強会を開催してほしい。
- ・県への要望です。須賀川支援学校は現在、病弱な子供を対象としていますが、他の障がいがある子供を受け入れてほしいです。あぶくま支援学校は4月からバスを郡山市内へのみの送迎となっています。玉川

校が開校となりますが、様々な学校の特色、子供との相性もあるので、選択肢を増やしてほしいです。

- ・現場の人間や療育の先生の負担が多く、支援者が少なすぎる。加配制度などがないので、発達にかかわると思います。よく理解していただける先生に担任になっていただければよいですが・・・保護者に教えてくださと言われても困ります。実際生活して家庭療育をし、先生と会議して・・・なんてやっている人はごくごく少数だだと思います。先生方への勉強会をやってほしいです。あたりハズレが大きい。
- ・障がい児が通える保育園や幼稚園を増やして欲しい。入園申し込みの時点で断られることが多いとか、理解がなくてほったらかしの状態だという話を聞きました。

【行政】

- ・市主催で障がいについて勉強会を開催し、一般の人たちにも障がいについて理解してほしい。
- ・市もしくは県から経済的な援助がほしい。
- ・須賀川市主催でもう少し勉強会を開催してほしい。利用している事業所は市外なので参加できないものが多い。
- ・サポートブックがわかりづらい。県で統一したら良いのと思う。
- ・郡山市だと療育にかかった費用を返還してくれ、経済的負担が少なく済むので、須賀川市でも検討してほしい。
- ・行政の都合上、平日にしか連絡、手続きができないのはわかるが、こちら仕事も土日しか休みが取れないので、集まりや説明会などが平日にあると行きたいが、行くことができないので困っている。仕事をしている会社の理解も多少はあるが、何度も休みを取ると頭が上がらなくなる。給料も休んだ分少なくなって生活に困ってくる。休みが多いと申し訳なく感じ、会社を辞めざるをえなくなる。市の職員との電話連絡も平日フルタイムで働いていると電話に出ることができないので、結局連絡できずに終わってしまう。
- ・須賀川市役所社会福祉課の職員の対応が雑な時がある。申請に来た市民に対してもっと丁寧に対応できないのか？
- ・一生涯、不自由なく生活できる体制を整えてください。
- ・子どもを連れて手続きに行くと、多動の子どもから目が離せないで、子どもを預けるしかない場合があるので、そんなときに短い時間なのでお手伝いしてもらえると助かります。
- ・障がいに関する集まりが平日にしか行われないので休日（土・日）にもやってほしい。（仕事の都合上、平日に行けない人も多い）
- ・各種手続きの書類等、各機関連携して簡略・スムーズに手続きできると助かります。

就学児の保護者からの回答*

【障がい等・支援】

- ・子どもの検（健）診の際、見る目が甘いというか、小学校で落ち着きのない子供が多く見られている。もっと早く色々な支援であったり、小さい時に療育など受けていれば、小学校や中学校へ行った際、本人や周囲の人が障がいを受け入れることができるのでは…？と思います。赤ちゃんの頃でさえ、少し大きくなったときもしかして…と予測できる子供も多いと思います。検診の際、もっとしっかり見て、健

康状態の他に、精神面、発達面を見るべきかと思えます。集団で、時間が決められてさっさと見ているだけに思えます。早期発見、療育があるといいです。

- ・障がい児が障がい者になって、人として、仕事以外に興味や楽しみももって生活してもらいたいと考えています。
- ・子どもが知的遅れがあり、幼いころならあまり人の目を気にすることもありませんでしたが、今は4年生。これからどんどん成長していくわけですが、体が成長して大人になっても家にばかりいたら飽きてしまうこともあると思います。でも中学生や高校生になっても親としか外出できず、外出先も公園などは変な気がして先のことを考えると不安になります。

【福祉・施設】

- ・障がいをもつ親は、少しのことでも気にするため、気持ちを受け止めるような関わりをしてほしいです。障がい者に関わる支援者の指導もしていただけると幸いです。
- ・療育に通うことができるのが小学校までなので、中学・高校と長く通える所が必要かなと思いました。長く支援してもらえると良いと思います。
- ・市内の支援学校へ通学しているが、両親共働きのため、下校時の日中一時やデｲサービス等の活用、祖父母の協力なしでは生活できない。しかし、市内で利用できる事業所は少なく、すぐに満員になり、思う通りに利用できない。(事業所によってはサービスの格差、職員の資質など預けたくても安心して預けられないところもある。) 公設公営で預かってもらえるところがあれば、安心して働け、子育てもできると思います。年々、発達障害と思われる子どもの数は増えてきているので、現存の児童クラブの活用もとは思いますが、市で運営される(もしくは公設民営でもいいので)日中一時、放課後等デイサービスの開設をお願いし、安定したサービスの提供の場を確保してほしいと思います。
- ・小学生までの福祉サービスは充実しているが、少年になり、中学生・高校生の障がいのある子の過ごせる場が少なく家族は本当に参っています。本人の自立のため、家族の精神面でも安心して成年になってもお願いできるデｲサービスなど増えたらと思っています。
- ・ポスティングで事業所の宣伝をしているところがあるので、やめてほしい。
- ・療育を受ける機関が少ない。あっても遠い。情報が少ない。
- ・児童館などを利用するのが難しい子供には放デイがないと困ります。普通クラスの子の利用が増えて新年度になるたびに利用できる回数が減って居場所がなくなる。いじめもあるので増やしてほしい。
- ・(施設の)受け入れ側に引き受けてくれる体制・知識などの準備や指導がありますか?行かせたい保護者はたくさんいます。受け入れ側に問題があるので、行かせられないと感じます。
- ・高等部、高校生が利用できる事業所の立ち上げを支援するとともに、金銭面での補助を出してほしい。
- ・日中一時支援が朝8時30分からなので、仕事を選ばないといけません。(パート等)地域の児童クラブは7時30分からなので、同じ時間くらいから利用できるようにしてほしい。
- ・今一番不安に思うのは、将来どこの事業所も定員が一杯で入れないのではないかということです。障がい疑いの子供が増える中、本当に不安に感じています。短期入所も少ないうえに集中して希望があるので、利用を断られることもあります。家では退屈で、不適切な行動が出てしまうこともあります。(事業所さんだとそんなことはなく、楽しく過ごして帰ってきます。)将来的には親も年をとりますので、本人には入所施設にお世話になりながら、各事業所さんへ通い、生活介護や日中一時で過ごしてもらえ

ると安心です。定員でどこも行けない…これだけは避けたいのです。少しずつでもいいです。サービスの充実や施設増を切に希望いたします。何とぞよろしくお願い申し上げます。

- ・日中一時や放課後デイは小学校までや中学校までという事業所が多いので、その先の枠を増やしてほしい。預けるところがないと仕事もできません。生活していくうえで仕事はやめることは絶対できません。増やしていただくことができないのならもっと金銭面の保証をしてください。
- ・放課後等デイを利用していますが、職員の対応があいまいで子供を預けていることに不安を覚えます。なかなか不安や心配事を話せる人がいないので、親の会などがもしあれば参加したいです。
- ・もっと就労支援に力を入れてほしいです。障がいの方が増えてます！
- ・市内の療育施設の空きが少ないため、増やしてほしい。週2回→週1回→隔週と減っている。できれば、中学校でも放課後等デイサービスを利用したい。
- ・ファミサポや移動支援など増やしてほしい。
- ・放課後デイについて職員側があまり知識がない方がおられることがあります。できたら定期的に職員側の勉強会が行われたら良いかと思えます。
- ・18歳（学校卒業後）が心配です。家族が仕事をしていると事業所が終わる時間が15時～16時くらいと聞いているので、家族が帰ってくるまでの時間をどのように過ごさせたらいいのか色々問題があって…。夜7時～8時くらいまで対応してもらえると働きやすいのですが…。
- ・支援学校高等部後の学びの場があったらいいと思っています。まだまだ成長の途中である子供達、ゆっくり育てている子供達が高等部卒業後すぐに就労するのは早すぎるように思います。選択肢としてそのような場があったらいいと思います。

【社会環境】

- ・患者会の活動に協力してください。稀少疾患のまだ会にもなっていない方々、たくさんいらっしゃると思えます。まずは「つなげる」。個人情報保護法の関係で医療機関でつながることすら難しい時代です。
- ・障がい児や障がい者の習い事や趣味の場を充実させてほしい。また、そういうことをしている場所の情報を提供してほしい。
- ・保護者同士で話ができるようなサークルとか親の会みたいな場を作ってほしい。悩みが同じ人たちと話をできる機会があると孤独でないと思う。保健師さんや福祉課の方々は忙しいと思うのでなかなか話せない。というか担当者が変わった時にだけ連絡頂けますが、役割ってなんですか？もっと具体的に支援できる内容を説明してほしいと思います。
- ・周りの理解があまり無いので生活しづらい場面が多くあります。発達障がい児が「困っている子」ということはほとんど知られていない現実で、偏見が嫌で小中学校の特別支援学級を希望しない家庭が多いです。せっかく支援クラスを選んでも免許のない教師に任せているので大事な小中学校の時代にもっと専門的に指導してもらいたいです。本当に悩んだり、困っているのは当事者にならないとわからないことを知って欲しいです。もっと住みごごちの良い市にしてください。よろしくお願いします。
- ・障がいがあっても気兼ねなく親も子も参加できる楽しい体験・経験となるものがあれば。
- ・障害により偏見などで肩身の狭い思いをして辛い本人と家族が多いことを様々な場面で伝えてほしい。
- ・乳児期児童期など子供が小さい時に療法やガンバリズムや大人の価値観に見合うような働きかけではな

く子供当人の目線に立って障害があっても幼児は幼児、児童は児童の年齢相応の働きかけを人権を持った一人の人として要求、拒否、注意喚起ができるような気持ちを認めることの大切さをどの事業所に行っても享受できるような環境設定をしてほしいと思います。市内の事業所全体での共通認識にしていただけならありがたいなと思います。

【保育・教育】

- ・学校での支援員を増やしてほしい。特別支援学級のクラスの数とそこにいる人数・学年など考えて配置するように教育委員会に働きかけてほしい。足りない。
- ・保護者の勉強会（学年・年齢別に）お願いしたいです。
- ・小中学校（義務教育）教師及び子どもと関わる仕事の方の支援方法の徹底。視覚的支援・教室内の構造化・スケジュールなど、通常発達児にも有効です。
- ・特別支援学級の担任を1年ごとや教諭ではなく、講師、通常学級で働まらないような人にしないでほしい。
- ・教育委員会の就学指導（障がい児担当）の方は特別支援教育についてわかっている人がやるべき。
- ・（教育委員会の管轄かもしれませんが）学校に情緒の通級を増やしてほしい。
- ・学校の先生の専門性が薄いので子供たちの特性を理解するのに時間がかかりすぎている。幼稚園や保育園からの情報をもっと利用してほしい。他の自治体ではもう少し体制が進んでおりますが、なぜそういったのを取り入れられないか不満です。
- ・特別支援学級における教育委員会と保健師さんetcで年1回の話がありますが、参加できない人には事後報告もなければ話し合いの内容も伝えてもらえず、わかりません。事前にアンケートをとって反映させてほしい。
- ・学校の先生に対して不信感を持っています。障害への理解が足りないし、何事もなくやりすごそうとしているのかとさえ感じます。
- ・中学校までは市内の学校に通えましたが、高等部になると郡山か石川の支援学校に通わなくてはならず、大変です。（本人、家族とも）通学に使える支援を提供してくれる事業所も（特に石川）ぐっと減ってしまいます。高等部は義務教育ではないことも承知しておりますが、空き教室のある学校などがありましたら、市内で高等部での学びの時間を過ごさせてやることはできないでしょうか。須賀川養護は病弱の方のみの学校とのことなので、知的学級や情緒学級を卒業した子供たちの受け皿が地元にあってくれたら本当に助かります。
- ・特別支援学校は高等部はバスが出なく自分で通学しなくてははいけません。自分のことができないから支援学校に行くのだから高等部でもバスを出すべきだと思います。市から県に言ってください！少くらい燃料代かかっても親は大変助かります。
- ・小学校の娘は通常学級にありますが、広汎性発達障害で通級の指導を受け放課後デイサービスも利用しています。知的には問題がないものの、社会性に困難を抱えている娘には、通級での指導や放課後デイでの指導がとても貴重で重要なものだと思っています。本人や親（私）への精神面でもとても助かっています。でも、中学校には通級自体が無く、今お世話になっている放課後デイ（ひだまりの庭）は中学生は受け入れしない（来年から）とのこと。中学校に進むと定型発達のお子さんでさえ環境の激変に戸惑うというのに、心の支えである放課後デイにも行けなくなるのは今から不安でたまりません。発達障

害や、いわゆる「グレー」の子供達は増えていると聞きます。せめて「中学1年生まで」でも受け入れてくれる良い放課後デイの増設を切に願います。市が先行投資をすることで、社会にとけこめない子がひきこもり→生活保護などの支出を減らすことができるのではないかと思います。よろしく願います。

- ・学校の送迎時間についてですが、年度当初（4月から）は朝8時に須賀川駅だったのですが、2学期からは朝8:20になり、私たちでの送迎が難しくなりました。移動支援もどこいっばいで使用できなく、離れて居る祖父に朝の送迎を頼むしかありませんでした。たかが2分と思いますが、仕事に間に合わず、時間も（移動支援を使う場合）お金もかかる様になりました。祖父も仕事をしているので迷惑がかかっています。

【行政】

- ・市役所のHPに載っている施策に対する手立てと評価が毎年同じようなのはいかがなものか。具体的な評価記述をしてほしい。
- ・基礎資料となるアンケートから「第1期障がい児福祉計画」はどのように進み何を目標しているのか知りたいです。
- ・市で軽度障がい、服薬などの医師（専門）の講演をやってほしいです。（今は事業所に入所・通所していないといけなことが多いし、貼り紙しかしていないので手続きなどわからない。）
- ・福祉課でこの用紙を送付できるということは、障がい児等の把握をしていると思うが、勉強会の案内や利用できる福祉サービスの内容を送付してくれないのか不親切。
- ・市で心理カウンセリングや児童発達の勉強会など開催してほしい。知識が乏しく理解の無い保護者との差がありすぎて学校生活に支障が出ている。
- ・発達障害に対する理解を深めるための勉強会をしてほしい。
- ・休日の窓口がほしい。
- ・保健師さんによって対応がバラバラです。しっかり業務内容を確立してほしいです。
- ・障害福祉課（障がい福祉係）に限らず、市の職員は1ヶ月くらい介護施設で介護を体験してみたいかですか？寄り添った支援につながると思います。実際、体験してみないと分かりません。もちろん、子供の療育センター、大学病院または総合病院など見学してみるだけでもちがうと思います。仙台のこども病院やマクドナルドハウスも、とてもいい勉強になりますよ。
- ・（相談先の問いに）市役所の窓口とありますが…意図もなく立ち寄って何か得られるのですか？その情報がほしいです。
- ・福祉サービスの利用や施設、制度など障がいに関わる情報が分からない部分もあり、情報誌（広報誌等）があればいいと思う。障がい者の家族に対して。

表紙絵：須賀川支援学校 高等部 2 年生 「茶室の門」